

## 西洋史専攻分野科目

| 授業科目          | 講義題目                           | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時      | 平成30年度以前入学者<br>読替先授業科目 |
|---------------|--------------------------------|----|--------|------------|------------------------|
| 西洋史特論Ⅲ        | 古代ギリシアの経済と社会                   | 2  | 杉本 陽奈子 | 前期 火曜日 2講時 |                        |
| 西洋史特論Ⅳ        | 「ユートピア」の系譜—アレクサンドル庭園のオベリスクの19人 | 2  | 浅岡 善治  | 後期 水曜日 3講時 |                        |
| 比較文化史学特論Ⅰ     | ソ連現代史研究の諸問題                    | 2  | 寺山 恭輔  | 後期 金曜日 2講時 |                        |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅲ | ヨーロッパ中近世史料研究                   | 2  | 有光 秀行  | 前期 月曜日 3講時 |                        |
| 西洋古代・中世史研究演習Ⅳ | ヨーロッパ中近世史料研究                   | 2  | 有光 秀行  | 後期 月曜日 3講時 |                        |
| 西洋近現代史研究演習Ⅰ   | 欧米近現代史研究方法論                    | 2  | 浅岡 善治  | 前期 月曜日 2講時 |                        |
| 西洋近現代史研究演習Ⅱ   | 欧米近現代史研究方法論                    | 2  | 浅岡 善治  | 後期 月曜日 2講時 |                        |
| 比較文化史学研究演習Ⅰ   | ソ連史文献研究Ⅰ                       | 2  | 寺山 恭輔  | 前期 金曜日 4講時 |                        |
| 比較文化史学研究演習Ⅱ   | ソ連史文献研究Ⅱ                       | 2  | 寺山 恭輔  | 後期 金曜日 4講時 |                        |

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本 陽奈子

コード：LM12201, 科目ナンバリング：LGH-HIS606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代ギリシアの経済と社会

2. Course Title (授業題目)：Ancient Greek Economy and Society

3. 授業の目的と概要：本講義では、古代ギリシアにおける経済活動がいかなるものであり、ポリス社会がそこにどのように関与していたのかを学んでいく。その際、経済活動の担い手や古代経済の性格をめぐる研究史上の争点についても確認し、史料解釈にあたっての注意点についても理解していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explains the ancient Greek economy focusing on the network of traders and bankers with the aim of understanding the nature of the Greek economy and the role of the polis.

5. 学習の到達目標：本講義では、古代ギリシアにおける経済活動について専門知識を深めると同時に、根拠となる史料の解釈について自ら主体的・批判的に思考することができるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main purpose of this course is to understand the ancient Greek economy and learn the way to interpret the relevant sources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 古代ギリシア世界とポリス
- 3 ポリス社会と身分
- 4 アテナイ民主政
- 5 顕彰決議
- 6 商業活動をとりまく環境
- 7 アテナイの穀物供給政策と商人
- 8 銀行業
- 9 商業従事者の社会的地位
- 10 職業イメージ
- 11 法廷とレトリック
- 12 法廷における証言と商業活動
- 13 商業裁判における証拠の利用
- 14 海賊行為
- 15 まとめ：商業活動を支えた諸要素

8. 成績評価方法：

授業内の小レポート (20%) + 期末レポート (80%) (=計 100%)

9. 教科書および参考書：

(参考書) 服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006年。

その他、授業内で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：上に挙げた参考書を読み、古代ギリシア史に関する基礎的な知識を学んでおくこと。また、授業後には講義内容について復習し、授業内で紹介した参考文献に可能な限り目を通すこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：西洋史特論Ⅳ／ European and American History (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM23302, 科目ナンバリング：LGH-HIS607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「ユートピア」の系譜—アレクサンドル庭園のオベリスクの19人
2. Course Title (授業題目)：The genealogy of utopianism：Nineteen Names on the Alexander Garden Obelisk
3. 授業の目的と概要：1918年、ロシアの革命政権は、クレムリン近くのアレクサンドル庭園にあるオベリスクの銘を、それまでのロマノフ朝の歴代皇帝の名前から、同政権がその先達とみなすヨーロッパの思想家・政治家19名の名前に書き換えた。この措置は、いわゆる「レーニンの記念碑政策」の一環であったが、新たな銘の内容からは「世界最初の社会主義政権」の自意識がはっきりと読み取れる。本講義では、それら19名の生涯と思想をほぼ年代順に取り上げ、ヨーロッパにおけるユートピア思想／社会主義思想の系譜を跡付ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theme of this course is to trace the genealogy of European utopian/socialist/communist thoughts through investigating lives and thoughts of nineteen pioneers on the Aleksander Garden Obelisk in Moscow.
5. 学習の到達目標：・近世以来のユートピア思想・社会主義思想の系譜から、近現代ヨーロッパ史の展開過程を把握する。  
・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp the outline of the modern/contemporary European history from the viewpoint of utopian and socialist thoughts.  
・To learn the ability to think "historically" on the basis of knowledge about early modern/modern history of Europe.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス—本講義の趣旨と進め方について
  2. 「どこにもない」理想郷—トマス・モア
  3. 理想都市と終末論—トマゾ・カンパネッラ
  4. 「真正の平等」—ジェラルド・ウィンスタンリ
  5. 「すべての宗教は虚妄なり」—ジャン・メリエ
  6. フランスの「ユートピア的社会主義」—アンリ・ド・サン=シモン、シャルル・フーリエ
  7. フランス・アナキズム—ピエール=ジョゼフ・ブルードン
  8. ロシア・アナキズム—ミハイル・バクーニン
  9. 「科学的社会主義」の自負—カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス
  10. フランス急進社会主義—エドゥアール・ヴァイヤン
  11. ロシア「人民主義」—ニコライ・チェルヌイシェフスキー、ピョートル・ラヴロフ、ニコライ・ミハイロフスキー
  12. ドイツ社会主義—フェルディナント・ラサール、ヴィルヘルム・リープクネヒト、アウグスト・ベーベル
  13. 社会主義と世界戦争—ジャン・ジョレス
  14. 「ロシア・マルクス主義の父」—ゲオルギー・プレハーノフ
  15. 総括と展望
8. 成績評価方法：

期末試験：100%。
9. 教科書および参考書：

特定のテキストは使用しない。個別的文献については、講義の進行に合わせて随時紹介していく。
10. 授業時間外学習：「特論」ながら講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

質問等は随時。  
研究室：文学研究科5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25203, 科目ナンバリング：LGH-HIS608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Challenges in the study of Soviet Contemporary History
3. 授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：More than 100 years have passed since the Russian October Revolution formed the USSR in 1922. The Study of Soviet history, though it progressed over the first seven decades, advanced especially after its collapse 30 years ago. This course begins with tracing the history of Soviet Studies in and out of Russia for about a century, and focuses on the Soviet far eastern region of the Stalin era.
5. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。  
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. The Purpose of this course is to understand the history of Soviet Studies in and out of the Soviet union especially after the collapse of Soviet Union.  
2. The Purpose of this course is to understand the development process of the Soviet far East during the Stalin Era.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. イントロダクション
  2. ソ連時代のソ連史研究
  3. ソ連崩壊後のソ連史研究
  4. ソ連極東とは？ アムール総督府時代、ロシア革命とロシア極東
  5. シベリア出兵、極東共和国、1920 年代のソ連極東①
  6. 1920 年代のソ連極東②、スターリンの上からの革命とソ連極東
  7. 満州事変とソ連指導部、兵士の反応
  8. ソ連極東沿岸における要塞、砲台建設
  9. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
  10. 潜水艦・魚雷艇建造と極東への搬送
  11. 中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
  12. ダリストロイの形成、国境紛争
  13. 備蓄の構築
  14. 独ソ戦争時代のソ連極東. 1945 年の日ソ戦争と北方領土問題
  15. 第二次世界大戦後のソ連極東
  16. 総括
8. 成績評価方法：  
レポート 50%、出席 50%
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。  
No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んてくること。  
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00  
事前にメールで連絡しておくこと。  
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM11307, 科目ナンバリング：LGH-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。  
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：  
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：  
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) IV

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM21306, 科目ナンバリング：LGH-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。  
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：  
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：  
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習 I / History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11205, 科目ナンバリング：LGH-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目) : History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握  
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.  
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. テキストの検討・討論(1)a
  3. テキストの検討・討論(1)b
  4. テキストの検討・討論(1)c
  5. テキストの検討・討論(1)d
  6. テキストの検討・討論(1)e
  7. 小括(1)
  8. テキストの検討・討論(2)a
  9. テキストの検討・討論(2)b
  10. テキストの検討・討論(2)c
  11. テキストの検討・討論(2)d
  12. テキストの検討・討論(2)e
  13. 小括(2)
  14. 中間的総括に向けての課題の整理
  15. 中間的総括
8. 成績評価方法：  
出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：  
現在のテキストは、A. ハミルトン・J. ジェイ・J. マディソン『ザ・フェデラリスト』斎藤眞・中野勝郎訳、岩波文庫、1999 年。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。  
研究室：文学研究科棟 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21205, 科目ナンバリング：LGH-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握  
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.  
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. テキストの検討・討論(1)a
  3. テキストの検討・討論(1)b
  4. テキストの検討・討論(1)c
  5. テキストの検討・討論(1)d
  6. テキストの検討・討論(1)e
  7. 小括(1)
  8. テキストの検討・討論(2)a
  9. テキストの検討・討論(2)b
  10. テキストの検討・討論(2)c
  11. テキストの検討・討論(2)d
  12. テキストの検討・討論(2)e
  13. 小括(2)
  14. 総括に向けての課題の整理
  15. 総括
8. 成績評価方法：  
出席30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%
9. 教科書および参考書：  
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。  
研究室：文学研究科棟5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp



科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15404, 科目ナンバリング：LGH-HIS615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I
2. Course Title (授業題目)：Reading texts of Russian and Soviet History I
3. 授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.  
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。  
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.  
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。
8. 成績評価方法：  
授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。  
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。  
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：  
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00  
事前にメールで連絡しておくこと。  
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail.

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25405, 科目ナンバリング：LGH-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ
3. 授業の目的と概要：前期と同じ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.  
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：前期と同じ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.  
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
前期と同じ
8. 成績評価方法：  
前期と同じ
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。  
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。  
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：  
オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00  
事前にメールで連絡しておくこと。  
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .